

学 校 案 内

1. 本校の創設及び沿革

我が国産業の目覚ましい発展に伴い、科学技術者の養成が強く要望され、昭和37年度から新たな学校制度としての高等専門学校が発足した。

北九州工業高等専門学校は、この新しい高等教育機関の1つとして工業に関する専門教育を受け、産業の興隆並びに文化の発展に貢献し得る有能な技術者を育成するため、昭和40年4月1日工業都市北九州市に創設された。当時は、機械工学科（定員80名）、電気工学科（定員40名）の2学科で発足したが、昭和45年度には化学工学科（定員40名）、昭和62年度には電子制御工学科（定員40名）が新たに増設され、平成元年度には、従来の機械工学科（定員80名）が、機械工学科（定員40名）と制御情報工学科（定員40名）の2学科に改組された。平成10年度には、化学工学科が物質化学工学科に改組され、平成14年度には、電気工学科が電気電子工学科に改名された。平成16年度には、独立行政法人国立高等専門学校機構法により独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する北九州工業高等専門学校となった。平成27年度には準学士課程の高度化・再編を図り、5学科が生産デザイン工学科の1学科（第3学年から、機械創造システム、知能ロボットシステム、電気電子、情報システム、物質化学の5コース）に改組された。

また、平成8年度には、生産工学専攻、制御工学専攻、化学工学専攻の3専攻をもつ専攻科（大学課程相当）が設置された。平成16年度には、化学工学専攻が物質化学工学専攻に改名された。更に、平成27年度から3専攻を統合し生産デザイン工学専攻に改組された。平成18年5月には、準学士課程第4学年から専攻科第2学年までの4年間の「生産デザイン工学」教育プログラムが、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた。これによって、国際的に通用する技術者を育成するための教育プログラムとして認められている。

2. 本校の教育目的及び具体的な目標

本校では、「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」を目指し、次のような3つの教育目的を掲げ、さらに具体的にA～Gに示す学習・教育目標を設定して学生の指導にあたっています。

（教育目的）

- ☆ 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
- ☆ 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
- ☆ 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

（学習・教育目標）

A 技術内容を理解できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者

- ①数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ②自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

B 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ①専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ②自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

C 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ①実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ②機器類（装置・計測器・コンピュータなど）を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

D 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、活用できる。
- ②工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

E 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ①歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ②日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。

F 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境とのかかわりを考えることのできる技術者

- ①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③技術者としての役割と責任を認識できる。

G 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ①健やかな心身をもち、社会性、協調性を身に付ける。
- ②社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

3. 「生産デザイン工学」教育プログラム

平成16年度からは、「生産デザイン工学」教育プログラムを設定しています。この教育プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けたもので、編入学直後の第4学年次から第5学年次を経て、専攻科第1および第2学年次までの4年間を対象としています。編入学者は全員この教育プログラムの少なくとも前期2年間の履修対象者となります。

4. 所在地

〒802-0985 北九州市小倉南区志井5丁目20番1号

JR小倉駅からJR日田彦山線で志井公園駅まで約20分（下車徒歩15分）、JR小倉駅前バス停から主に34・36番系統バスで北九州高専前バス停まで約40分（下車徒歩2分）、小倉駅からモノレールで志井駅又は企救丘駅まで約18分（下車徒歩15分）。都心を離れた閑静な地に位置し、勉学に極めて恵まれた環境にあります。

5. 教育課程

一般科目

授業科目			単位数	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	国語 I	2	2					
		国語 II	2		2				
		現代日本文学	2			2			留学生以外に対して開講 留学生に対して開講
		近代文学	2				2		
	社会	地理	2	2					
		公共倫理	2		2				
		歴史	2		2				
	数学	現代社会	2			2			
		基礎数学 I	4	4					
		基礎数学 II	2	2					
微分積分 I		4		4					
微分積分 II		4			4				
理科	代数幾何 I	2		2					
	代数幾何 II	2			2				
	物理 I	4	2	2					
	化学	4	2	2					
	総合科学	2	2						
	保健・体育	保健	1	1					
		体育 I	2	2					
		体育 II	2		2				
		体育 III	2			2			
	音楽	生涯スポーツ	2				2		
音楽		1	1						
外国語	英語 A I	4	4						
	英語 A II	4		4					
	英語 A III	2			2				
	英語 A IV	2				2			
	英語 B I	2	2						
	英語 B II	2			2				
英語 C	2					2			
必修科目単位数計			72	26	22	16	6	2	
選択科目	第2外国語	第2外国語	2			2			開講する外国語から2単位修得
		一般総合選択	1				1		前期で1単位 後期で1単位 修得
	日本文学論	1					1	前期・後期	
	社会特論	1					1		
	体育特論	1					1		
	数学演習	1					1	前期のみ	
	数学特論	1					1	後期のみ	
	英語特論	1					1	前期のみ	
	英語演習	1					1	後期のみ	
	社会選択	文化交流史	4				2	2	4年で2単位、 5年で2単位修得
哲学・倫理学		4				2	2		
文化地理学		4				2	2		
法社会学		2				1	1		
経済学	2				1	1	前期・後期		
選択科目開設単位数計			25			2	15	8	
選択科目修得単位数計			8			2	4	2	
開設単位数計			97	26	22	18	21	10	
修得単位数計			80	26	22	18	10	4	

専門基礎共通科目

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当		備 考
			1年	2年	
必 修 科 目	情 報 処 理 I	2	2		
	情 報 処 理 II	2		2	
	基 礎 製 図 I	1	1		
	基 礎 製 図 II	2		2	
	電 気 基 礎	1		1	
	材 料 基 礎	1		1	
	工 学 基 礎 I	2	2		
	工 学 基 礎 II	2		2	
	工 学 基 礎 実 験 I	2	2		
	工 学 基 礎 実 験 II	2		2	
専門基礎共通科目開設単位数計		17	7	10	
専門基礎共通科目修得単位数計		17	7	10	
一般科目開設単位数計		48	26	22	
一般科目修得単位数計		48	26	22	
開設総単位数計		65	33	32	
修得総単位数計		65	33	32	

機械創造システムコース

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当			備 考
			3年	4年	5年	
必 修 科 目	物 理 II	2	2			
	応 用 数 学	2		2		
	確 率 ・ 統 計 基 礎	1			1	
	数 値 計 算 法	1		1		
	材 料 学	2	2			
	機 構 学	1	1			
	工 業 力 学	2	2			
	材 料 力 学 I	2	2			
	材 料 力 学 II	2		2		学修単位
	熱 力 学	2		2		
	熱 機 関 工 学	2			2	
	伝 熱 工 学	2			2	
	水 力 学	2		2		
	流 体 力 学	2			2	
	機 械 工 作 法	2	2			
	機 械 加 工 学	1		1		
	設 計 工 学	2		2		
	機 械 工 学 演 習	1		1		
	創 造 デ ザ イン 演 習 I	2		2		
	創 造 デ ザ イン 演 習 II	2		2		
創 造 デ ザ イン 演 習 III	2			2		
機 械 製 図	2	2				
振 動 工 学	1		1			
自 動 制 御 I	1		1			
自 動 制 御 II	1			1		
メカトロニクス工学	2			2	学修単位	
工 業 英 語	1		1			
工 作 実 習	4	4				
機 械 工 学 実 験 I	2		2			
機 械 工 学 実 験 II	2			2		
卒 業 研 究	8			8		
必 修 科 目 単 位 数 計		61	17	22	22	
選 択 科 目	精 密 加 工 学	1		1		3単位以上修得
	材 料 力 学 III	1		1		
	新 素 材 材 料 学	1		1		
	長 期 学 外 実 習	3		3		
	工 作 実 習 基 礎	1		1		
	学 外 実 習 I	1		1		4単位以上修得 ・「学外実習Ⅱ」は、「学外実習Ⅰ」を修得 しておらず、かつ学科が承認した学外実習の 場合にのみ認定される科目である。 ・「機械創造システム特論Ⅰ・Ⅱ」は、学科 が承認した他高専・大学等による講義・実習 を履修した場合に認定される科目である。単 位の認定は別に定める。
	学 外 実 習 II	1		1		
	C A E 演 習	1		1		
	応 用 物 理	1		1		
	基 礎 デ ィ ジ タ ル 回 路	1		1		
	ロ ボ ッ ト 工 学	1		1		
	工 業 英 語 演 習	1		1		
	品 質 管 理	1		1		
	機 械 創 造 シ ス テ ム 特 論 I	1		1		
機 械 創 造 シ ス テ ム 特 論 II	1		1			
材 料 力 学 概 論	1		1		前期・後期 材料力学概論、メカトロニクス概論以外から、前期と後期 で1単位ずつ修得	
基 礎 カ ー エ レ ク ト ロ ニ ク ス	1		1			
コ ン プ ュ ー タ 概 論	1		1			
メカトロニクス概論	1		1			
物 質 化 学 工 学 概 論	1		1			
選 択 科 目 開 設 単 位 数 計		22		9	13	
選 択 科 目 修 得 単 位 数 計		9		3(4)[5]	6(5)[4]	4年生の選択科目の修得によって、5年生の選 択科目の修得単位数が変わる。
専 門 科 目 開 設 単 位 数 計		83	17	31	35	
専 門 科 目 修 得 単 位 数 計		70	17	25(26)[27]	28(27)[26]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単 位数が変わる。
一 般 科 目 開 設 単 位 数 計		49	18	21	10	
一 般 科 目 修 得 単 位 数 計		32	18	10	4	
開 設 総 単 位 数 計		132	35	52	45	
修 得 総 単 位 数 計		102	35	35(36)[37]	32(31)[30]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単 位数が変わる。

知能ロボットシステムコース

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当			備 考
			3年	4年	5年	
必 修 科 目	物 理 II	2	2			
	知能ロボットシステム概論	1	1			
	力 学	1	1			
	材 料 力 学 I	2	2			
	材 料 力 学 II	1		1		
	機 構 学	1	1			
	機 械 工 作 法	1	1			
	工 作 実 習	2	2			
	インターフェース工学	1	1			
	組込み技術演習Ⅰ	2	2			
	組込み技術演習Ⅱ	2	2			
	プログラミング	1	1			
	情報処理技術演習	1	1			
	応 用 数 学 I	2		2		
	応 用 数 学 II	1			1	
	機 械 力 学	2		2		
	熱 力 学	2		2		
	水 力 学	2		2		
	機 械 設 計	2		2		
	制 御 工 学	2		2		
	創造ロボット演習Ⅰ	4		4		
	創造ロボット演習Ⅱ	3			3	
	アルゴリズム	1		1		
	コンピュータアーキテクチャ	1		1		学修単位
	知能ロボットシステム実験Ⅰ	2		2		
	知能ロボットシステム実験Ⅱ	2			2	
熟システム工学	1			1		
流 れ 学	2			2		
ロボット制御演習	1			1		
ロボット工学	1			1		
システム制御工学	2			2		
メカトロニクス工学	2			2		
数 値 計 算 法	2			2		
卒 業 研 究	8			8		
必修科目単位数計		63	17	21	25	
選 択 科 目	長 期 学 外 実 習	3		3		3単位修得
	プロジェクト演習	3		3		
	学 外 実 習 I	1		1		2単位以上修得 ・「学外実習Ⅱ」は、「学外実習Ⅰ」を取得 しておらず、かつ学科が承認した学外実習の 場合にのみ認定される科目である。
	学 外 実 習 II	1			1	
	品 質 管 理	1			1	
	図 形 処 理 工 学	1			1	
	知能ロボットシステム特論Ⅰ	1		1		・「知能ロボットシステム特論Ⅰ・Ⅱ」は、 学科が承認した他高専・大学等による講義・ 実習を履修した場合に認定される科目であ る。単位の認定は別に定める。
	知能ロボットシステム特論Ⅱ	1			1	
	材 料 力 学 概 論	1			1	前期・後期 材料力学概論、メカトロニク ス概論以外から、前期と後期 で1単位ずつ修得
	基礎カーエレクトロニクス	1			1	
コンピュータ概論	1			1		
メカトロニクス概論	1			1		
物質化学工学概論	1			1		
選択科目開設単位数計		17		8	9	
選択科目修得単位数計		7		3(4)[5]	4(3)[2]	4年生の選択科目の修得によって、5年
専門科目開設単位数計		80	17	29	34	
専門科目修得単位数計		70	17	24(25)[26]	29(28)[27]	4年生の修得単位数によって、5年生の
一般科目開設単位数計		49	18	21	10	
一般科目修得単位数計		32	18	10	4	
開設総単位数計		129	35	50	44	
修得総単位数計		102	35	34(35)[36]	33(32)[31]	4年生の修得単位数によって、5年生の 修得単位数が変わる。

電気電子コース

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当			備 考
		3年	4年	5年	
必 修 科 目	物 理 II	2	2		
	電 子 回 路 設 計	1	1		
	電 気 機 器 設 計	1			1
	情 報 処 理 III	1	1		
	電 気 回 路 I	2	2		
	電 気 回 路 II	2		2	
	電 気 磁 気 学 I	2	2		
	電 気 磁 気 学 II	2		2	
	電 子 回 路 I	2	2		
	電 子 回 路 II	2		2	
	電 気 機 器 I	2	2		
	電 気 機 器 II	1		1	
	電 気 電 子 工 学 実 験 I	4	4		
	電 気 電 子 工 学 実 験 II	4		4	
	応 用 数 学 I	2		2	
	応 用 数 学 II	2			2
	応 用 物 理	2		2	
	電 気 電 子 工 学 演 習 I	1		1	
	電 気 電 子 計 測 工 学	1		1	
	電 子 工 学	1		1	
	基 礎 制 御 工 学 I	2		2	
	基 礎 制 御 工 学 II	1			1
	パワ－エレクトロニクスI	1		1	
	パワ－エレクトロニクスII	1			1
	電 子 回 路 製 作 実 習	1		1	
	数 値 計 算 法	1			1
	電 気 電 子 材 料	1			1
高 電 圧 工 学	2			2	学修単位
通 信 工 学	1			1	
電 力 シ ス テ ム 工 学	2			2	
エ ネ ル ギ ー 変 換 工 学	1			1	
工 業 英 語	1			1	
電 気 法 規 及 び 施 設 管 理	1			1	
電 気 電 子 工 学 実 験 III	2			2	
卒 業 研 究	8			8	
必 修 科 目 単 位 数 計	63	16	22	25	
選 択 科 目	情 報 処 理 IV	1	1		3単位修得
	電 気 電 子 工 学 演 習 II	1	1		
	電 気 電 子 工 学 演 習 III	1	1		
	カ－エレクトロニクス	1	1		2単位以上修得
	長 期 学 外 実 習	3	3		
	学 外 実 習	1	1		・「電気電子工学特論Ⅰ・Ⅱ」は、学科が承認した他高専・大学等による講義・実習を履修した場合に認定される科目である。単位の認定は別に定める。
	電 気 電 子 工 学 特 論 I	1	1		
	電 気 電 子 工 学 特 論 II	1		1	
	基 礎 オ プ ト エ レ ク ト ロ ニ ク ス	1		1	
	パワ－エレクトロニクス演習	1		1	
	電 気 回 路 III	1		1	
	数 値 計 算 演 習	1		1	
材 料 力 学 概 論	1		1		
基 礎 カ－エレクトロニクス	1		1		
コ ン プ ュ ー タ 概 論	1		1		
メ カ ト ロ ニ ク ス 概 論	1		1		
物 質 化 学 工 学 概 論	1		1		
選 択 科 目 開 設 単 位 数 計	19		9	10	
選 択 科 目 修 得 単 位 数 計	7		3(4)[5]	4(3)[2]	4年生の選択科目の修得によって、5年生の選択科目の修得単位数が変わる。
専 門 科 目 開 設 単 位 数 計	82	16	31	35	
専 門 科 目 修 得 単 位 数 計	70	16	25(26)[27]	29(28)[27]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。
一 般 科 目 開 設 単 位 数 計	49	18	21	10	
一 般 科 目 修 得 単 位 数 計	32	18	10	4	
開 設 総 単 位 数 計	131	34	52	45	
修 得 総 単 位 数 計	102	34	35(36)[37]	33(32)[31]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。

情報システムコース

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当			備 考
		3年	4年	5年	
必 修 科 目	物 理 II	2	2		
	電 気 磁 気 学 I	2	2		
	電 気 磁 気 学 II	2		2	
	電 気 回 路	2	2		
	電 子 回 路 I	2	2		
	電 子 回 路 II	2		2	
	アルゴリズムとデータ構造 I	1	1		
	アルゴリズムとデータ構造 II	1	1		
	システムプログラミング I	1	1		
	システムプログラミング II	1	1		
	計 測 工 学	2	2		
	電子情報システム工学実験実習 I	4	4		
	電子情報システム工学実験実習 II	4		4	
	電子情報システム工学実験実習 III	2		2	
	応 用 数 学 I	2		2	
	応 用 数 学 II	2		2	
	過 渡 現 象 論	1		1	
	電 気 回 路 演 習	1		1	
	ネットワークプログラミング	2		2	
	科 目	ネットワーク構成論 I	1	1	
ネットワーク構成論 II		1		1	
情 報 基 礎		1	1		
数 値 計 算 法 I		1	1		
制 御 理 論 I		1	1		
制 御 理 論 II		1	1		
制 御 機 器 I		1	1		
制 御 機 器 II		1		1	
情報制御システム創造演習		1	1		
工 業 英 語		1		1	
データベース基礎	1		1		
信 号 処 理	2		2		
システム制御理論 I	1		1		
システム制御理論 II	1		1		
シミュレーション	1		1		
卒 業 研 究	8		8		
必修科目単位数計	60	18	21	21	
選 択 科 目	画 像 処 理	1		1	3 単位修得
	数 値 計 算 法 II	1		1	
	プログラミング演習	1		1	
	長期学外実習	3		3	学修単位 学修単位 2 単位修得
	プロジェクトマネジメント演習	2		2	
	システム制御演習	2		2	
	学 外 実 習 I	1	1		3 単位以上修得 ・「学外実習 II」は、「学外実習 I」を修得 しておらず、かつ学科が承認した学外実習の 場合にのみ認定される科目である。 ・「情報システム特論 I・II」は、学科が承 認した他高専・大学等による講義・実習を履 修した場合に認定される科目である。単位の 認定は別に定める。
	学 外 実 習 II	1		1	
	情 報 技 術 概 論	1		1	
	シ ス テ ム 工 学	1		1	
	人 工 知 能	1		1	
	ロ ボ ッ ト 工 学	1		1	
	情報システム特論 I	1	1		
情報システム特論 II	1		1		
材 料 力 学 概 論	1		1		
基礎カーエレクトロニクス	1		1		
コンピュータ概論	1		1		
メカトロニクス概論	1		1		
物質化学工学概論	1		1		
選択科目開設単位数計	23	0	8	15	
選択科目修得単位数計	10		3(4) [5]	7(6) [5]	4年生の選択科目の修得によって、5年 生の選択科目の修得単位数が変わる。
専門科目開設単位数計	83	18	29	36	
専門科目修得単位数計	70	18	24(25) [26]	28(27) [26]	4年生の修得単位数によって、5年生の 修得単位数が変わる。
一般科目開設単位数計	49	18	21	10	
一般科目修得単位数計	32	18	10	4	
開設総単位数計	132	36	50	46	
修得総単位数計	102	36	34(35) [36]	32(31) [30]	4年生の修得単位数によって、5年生の 修得単位数が変わる。

物質化学コース

授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当			備 考
		3年	4年	5年	
必修科目	分析化学 I	1	1		
	分析化学 II	1	1		
	無機化学 I	1	1		
	無機化学 II	1	1		
	有機化学 I	1	1		
	有機化学 II	1	1		
	有機化学 III	1		1	
	有機化学 IV	1		1	
	生物化学 I	1	1		
	生物化学 II	1	1		
	物理化学 I	1	1		
	物理化学 II	1	1		
	物理化学 III	1		1	
	物理化学 IV	1		1	
	物理化学 V	1			1
	物質化学演習 I	1	1		
	物質化学演習 II	1	1		
	物質化学演習 III	1		1	学修単位
	物理 II	2	2		
	物質化学実験 I	2	2		
	物質化学実験 II	2	2		
	高分子化学 I	1		1	
	高分子化学 II	1		1	
	化学工学 I	2		2	
	化学工学 II	2		2	
	化学数学	2		2	
	応用物理 I	1		1	
応用物理 II	1		1		
工業英語	1		1		
物理化学実験	2		2		
環境資源エネルギー工学	1			1	
基礎生物化学工学 I	1			1	
基礎生物化学工学 II	1			1	
生物反応工学	1			1	
物質化学卒業研究輪講	2			2	
卒業研究	8			8	
共通必修科目単位数計	51	18	18	15	
応用化学系必修科目	計算機化学	1		1	
	無機化学 III	1		1	
	無機化学 IV	1		1	
	応用化学工学実験	2		2	
	化学工学演習	1			1
	触媒化学	1			1
	物質工学 I	1			1
	物質工学 II	1			1
	化学反応工学	1			1
	応用化学演習	1			1
	機器分析実験	2			2
	応用化学系必修科目単位数計	13		5	8
応用生物系必修科目	生物材料化学	1		1	
	食品工学 I	1		1	
	食品工学 II	1		1	
	生物工学実験	2		2	
	発酵工学	1			1
	応用生物演習	1			1
	微生物工学 I	1			1
	微生物工学 II	1			1
	応用生物工学 I	1			1
応用生物工学 II	1			1	
生物化学工学実験	2			2	
応用生物系必修科目単位数計	13		5	8	
共通選択科目	長期学外実習	3		3	
	品質管理	1		1	
	安全工学	1		1	
	構造解析学	1		1	
	学外実習	1		1	
	遺伝子工学	1		1	
	高分子化学 III	1			1
	応用有機化学	1			1
	材料力学概論	1			1
	基礎カーエレクトロニクス	1			1
コンピュータ概論	1			1	
メカトロニクス概論	1			1	
物質化学工学概論	1			1	
共通選択科目開設単位数計	15		8	7	
共通選択科目修得単位数計	6		2(3)[4]	4(3)[2]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。
専門科目開設単位数計	92	18	36	38	
専門科目修得単位数計	70	18	25(26)[27]	27(26)[25]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。
一般科目開設単位数計	49	18	21	10	
一般科目修得単位数計	32	18	10	4	
開設総単位数計	141	36	57	48	
修得総単位数計	102	36	35(36)[37]	31(30)[29]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。

6. コース紹介

(1) 機械創造システムコース

機械創造システムコースでは、高度な生産システム（電気、情報、制御）に対応し、新たな技術を創造するための基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者の育成を目指しています。最近、自動車や家電などのものづくり産業において、その急速な技術の進歩は製造機械のみに留まらず、情報・制御機器にまで及び従来のものづくりの形態が大きく変わり、より多様化しています。設計に必要なイメージの具現化から加工・計測に至るまでをコンピュータで行う CAE（CAD、CAM）の技術も要求されています。そのため、機械工学をベースとした基礎知識の習得と制御、情報、化学分野にも幅広く対応出来る技術者の養成を行います。

本コースには、上述した知識を学ぶことで取得可能な「機械設計技術者試験 3 級」、「3 次元 CAD 利用技術者試験 2 級および準 1 級」等の資格に加え、所定の単位を習得し卒業後に企業等で実務経験を積むことで取得可能な「ボイラー・タービン主任技術者（第 1 種、第 2 種）」（申請のみ）などがあります。

(2) 知能ロボットシステムコース

知能ロボットシステムコースでは、機械に知能を与えることができる、すなわちロボットを作ることができる技術者の育成を目的に、機械工学を柱に、ロボット設計技術、組込み技術、センシング技術、インターフェース技術、知能化情報技術、システム制御技術、それらを繋ぐシステム統合化技術を論理的かつ実践的に修得できる教育課程を設置しています。人間が知能や感覚によって行ってきた複雑な作業を機械に行わせるためには、機械自身が、周囲の情報（環境や状態）を正確に把握し、その情報に基づいて論理的に思考し、その思考によって動作しなければなりません。さらに、このようなロボットを実現する技術は、身の回りの多くの製品に用いられるようになり、ロボットによる多様なサービスが創出される未来社会では、社会的課題の解決にも直結する技術です。したがって、ユーザーの視点や社会実装における課題に対して、ロボット技術を駆使して自ら解決策を提案・デザインできる優れた人材を育成するために、創造的に考える力を養う教科横断的な専門科目を配置しています。

本コースでは、受検できる資格試験として「情報処理技術者試験」、「3 次元 CAD 利用技術者試験」、「機械設計技術者試験」、「組込みソフトウェア技術者試験」などがあります。

(3) 電気電子コース

電気電子コースでは、自ら学び続けることで、急速な技術の変化に対応でき、あらゆる分野・場所で活躍できる電気電子技術者の育成を目指しています。編入学後は、高等学校で学んだ工学基礎を土台として、電気電子工学（電気、電子、情報、機器）の専門的な知識・技術を学びます。卒業生が電気主任技術者として認定されるのに必要な科目・実験を十分実施しながらも、これからの地域・産業界のニーズに応えるため、エネルギーインフラ、ロボット・自動車産業にとって重要なパワーエレクトロニクス教育に重点を置いています。また、次世代自動車産業に貢献する人材育成のため、全コース対象のカーエレクトロニクス科目を新設します。自主性、独創性、課題解決能力を身に付けた電気電子技術者育成のために、プロジェクト実習、PBL を行う電子回路設計、電子回路製作実習を設定しました。5 年生では、電気電子工学の知識・技術を工学分野の課題解決に活用するとともに、多様性のあるチームでの共同作業について学べるようにしています。

本コースで所定の単位を取得し卒業後に企業等で実務経験を積むことで、国家資格・第 2 種または第 3 種電気主任技術者（実務経験の内容と経験年数によって異なる）の取得が可能です。また、本コースの卒業生は、国家資格・第 2 種電気工事士の受験において筆記試験が免除されます。ただし、高等学校での履修科目によっては上記の資格が得られない場合があります。

(4) 情報システムコース

情報システムコースでは、情報産業および情報技術を必要とする製造業において、高度情報化社会の技術変化に柔軟に対応できる理解力と創造力を持った実践的な技術者の育成を目指しています。

コンピュータ応用分野において、コンピュータシステム、ネットワークシステム、情報通信システム、計測・制御システムなどICT（情報通信技術）を活用したシステムの計画、解析、設計、開発、構築、運用などを行うには、システムのソフトウェアとハードウェアの両方の技術を理解したうえで対応することが必要となります。そのため、本コースでは、これらのシステムにおけるソフトウェアとハードウェアの知識と技術が体系的に身につくように教育課程を構成しています。低学年では、電気電子工学、情報工学分野の専門基礎科目を学び、これらを土台として高学年では、情報工学分野とシステム制御工学分野のハードウェアとソフトウェアに関連する専門科目を体系的に学習します。また講義内容の理解を深め、実践的な応用力を育成するために、各学年で演習や実験実習を行います。

本コースの教育課程は、国家資格である基本情報技術者試験（FE）の内容にも対応しています。

(5) 物質化学コース

物質化学コースでは、物質化学が関わる環境保全、クリーンエネルギー、高機能性素材、食品、医薬品、資源有効活用など多様な産業分野に対応するために、多様化・複雑化した問題に対処し得る工学知識や実践的技術を修得した実践的な技術者の育成を目指しています。応用化学系では、無機・有機ナノ材料の合成や物性評価、化学工学を学び、新素材開発や低炭素化技術への応用を修得します。具体的には、応用化学の専門知識を新しい物質・材料の開発に適用する方法が考えられる技術者、応用化学の専門知識を利用し、物質・材料の性質を的確に評価する方法が考えられる技術者の養成を行います。応用生物系では、生物（細胞や微生物を利用した）生産を学び、その検査への展開を修得します。具体的には、応用生物の基礎知識と技術を身に付けて、生物産業（食品、医薬品、環境技術）に貢献する能力を身に付けた技術者、応用生物に関するより専門的な技術を身に付けて、食品・医薬品・環境技術の生産や品質管理技術に関する専門的能力を身に付けた技術者の養成を行います。

本コースでは、卒業後に修得できる主な資格として「毒物劇物取扱責任者（資格取得（受験なし）」、「危険物取扱者（甲乙）（受験資格：卒業すれば得られる）」、「衛生工学衛生管理者（受験資格：卒業すれば得られる）」、「衛生管理者（1種、2種）（受験資格：実務経験1年以上）」および「作業環境測定士（受験資格：実務経験1年以上）」などがあります。

7. 専攻科の概要

本校には高専本科卒業生を受入れて、2年間の高度な技術教育を行う専攻科「生産デザイン工学専攻」が設置されています。社会情勢、産業構造や工業技術が劇的に変化し続ける現代、これまで以上に、融合複合領域に対応できる幅広い視野と高い課題設定・解決能力を持ち、地域及びグローバルに連携・協働できる、実践的かつ創造的技術者の養成が求められています。このような社会的・地域的要請に応えるため、本校専攻科では、専門工学の深化とともに、これからのモノ作りに必要とされる【高度融合複合教育】を実施します。

8. 課外活動

課外活動とは、正課の授業時間外に行う学生の組織的な諸活動のすべてをいいます。その活動を通して自己を生かし、組織の発展に寄与することは将来指導的立場に就く者にとって極めて貴重な経験となります。このため本校の課外活動は、学校行事と併せ、学生が自主的に行うサークル活動が各方面にわたって活発に行われている。サークルには次のようなものがあります。

◎ 体 育 関 係

硬式野球部、バレーボール部、卓球部、バスケットボール部、ラグビー部、サッカー部、陸上部、水泳部、柔道部、剣道部、ハンドボール部、ソフトテニス部、テニス部、バドミントン部、弓道部、空手道部

◎ 文 化 関 係

ブラスバンド部、写真部、英会話研究部、コンピュータ研究部、美術部、高専起業部

◎ 愛 好 会 ・ 研 究 会 等

郵便友の会、ギターコーラス同好会、文学愛好会、宇宙科学研究会、ロボコン、将棋愛好会、化学愛好会、ロボットデザイン研究会、数学愛好会

9. 入学時に必要な諸経費（予定額）

入 学 料	84,600 円
授 業 料（前期分）	117,300 円（年額 234,600 円）
教 科 書 代 約	35,000 円
教 材 費 約	30,000 円
後 援 会 費 他	37,530 円
合 計	約 304,430 円

※上記の納付金額は予定額であり、入学時及び在学中に学生納付金改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額が適用されます。

10. 修学支援制度（奨学金・入学料、授業料免除）

本校は、高等教育の修学支援新制度（授業料等減免と給付型奨学金）の対象校として認定されており、支援対象者は給付型奨学金の受給と併せて、入学料及び授業料の免除・減額の支援を受けることができます。進学する前年に在学高校等を通じて、日本学生支援機構（JASSO）への申込みが必要となりますので、希望者は在学高校等の奨学金担当窓口にお問い合わせください。

また、日本学生支援機構の貸与奨学金（第1種・第2種）も扱っています。進学前の予約申込もありますので、希望者は在学高校等の奨学金担当窓口にお問い合わせください。

給付型奨学金（給付額は令和3年度分）

給付型奨学金	区 分	自宅通学 給付月額	自宅外通学 給付月額
	第Ⅰ区分	17,500円(25,800円)	34,200円
	第Ⅱ区分	11,700円(17,200円)	22,800円
	第Ⅲ区分	5,900円(8,600円)	11,400円

※生活保護世帯（受けている扶助の種類を問いません。）で自宅から通学する人及び児童養護施設等から通学する人等は、上表のカッコ内の金額となります。

貸与奨学金（貸与額は令和3年度分）

第1種奨学金 (無利子)	区 分	貸与月額
	自宅通学	20,000円、30,000円、45,000円
自宅外通学	20,000円、30,000円、40,000円、51,000円	
第2種奨学金 (有利子)		20,000円～120,000円（10,000円刻み）

このほかに、県、市及び財団法人等による奨学金制度が数種あります。

11. 学生寮

本校には、学校敷地内に学生寮が設置されています。

高専の学生寮は、共同生活を通じての有為な人間形成を設置の主目的としています。そのため本校では、規律ある生活を通して互いに切磋琢磨しながら、協調心や忍耐力、他人への思いやりの心を養い、将来信頼される技術者になれるようにとの教育的見地から適切な生活指導を行っています。

寮生は、通学にかかからないため、時間的に余裕を持って、勉学や課外活動に励むことができるので、通学に長時間を要する者については、入寮することを勧めています。学生寮の入寮定員は164名（うち女子学生41名）で、月額寮費（食費、光熱費、水道料等）は約50,000円です。

12. 就職状況

求人は就職希望者の10倍以上あり、就職率は例年ほぼ100%です。

なお、卒業生の主な就職先は下記を参照ください。

- ・ 機械創造システムコース

<http://w3-mech.kct.ac.jp/career/>

- ・ 知能ロボットシステムコース

http://w3-cise.kct.ac.jp/grad_job.html

- ・ 電気電子コース

<https://www.kct.ac.jp/shinro/honkasyuusyoku.html>

- ・ 情報システムコース

<http://itss.apps.kct.ac.jp/career>

- ・ 物質化学コース

<https://w3-chem.kct.ac.jp/shinro/index.htm>

13. 卒業後の進学

本校は、卒業生の、約半数が北九州高専専攻科や国立大学工学部を始めとして、理学部、経済学部などに進学しています。更に、専攻科修了生の約半数は大学院に進学しています。

なお、主な進学先は次のとおりです。

(高専卒業生)

【国公立大学】		【私立大学】
岩手大学	京都工芸繊維大学	上智大学
東北大学	奈良教育大学	日本大学
秋田大学	大阪大学	慶応義塾大学
茨城大学	大阪府立大学	東京都市大学
筑波大学	神戸大学	岡山理科大学
埼玉大学	兵庫県立大学	福岡工業大学
千葉大学	岡山大学	
東京大学	岡山県立大学	
東京農工大学	広島大学	
東京工業大学	山口大学	
首都大学東京	徳島大学	
電気通信大学	香川大学	
横浜国立大学	愛媛大学	
新潟大学	九州大学	
長岡技術科学大学	九州工業大学	
金沢大学	北九州市立大学	
福井大学	佐賀大学	
山梨大学	長崎大学	
信州大学	熊本大学	
岐阜大学	大分大学	
静岡大学	宮崎大学	
名古屋大学	鹿児島大学	
豊橋技術科学大学	琉球大学	
三重大学	北九州高専専攻科	
京都大学		

(専攻科修了生)

【国公立大学】		【私立大学】
筑波大学大学院	九州工業大学大学院	早稲田大学大学院
東京大学大学院	北九州市立大学大学院	
東京工業大学大学院	熊本大学大学院	
豊橋技術科学大学大学院	宮崎大学大学院	
大阪大学大学院	鹿児島大学大学院	
島根大学大学院	北陸先端科学技術大学院大学	
広島大学大学院	奈良先端科学技術大学院大学	
九州大学大学院	総合研究大学院大学	